

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2024099

sk2024096

神機構-1263

③ 施設名等

名称	強羅暁の星園
施設長氏名	梶田 寛人
定員	50名
所在地(都道府県)	神奈川県
所在地(市町村以下)	
TEL	
URL	

【施設の概要】

開設年月日	1945/10/28
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人唐池学園
職員数 常勤職員	19名
職員数 非常勤職員	3名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数	15名
有資格職員の名称（イ）	幼稚園教諭
上記有資格職員の人数	15名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉士、看護師
上記有資格職員の人数	各1名
有資格職員の名称（エ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称（オ）	家庭支援専門相談員
上記有資格職員の人数	2名
有資格職員の名称（カ）	里親支援専門相談員、自立支援担当職員、個別対応職員
上記有資格職員の人数	各1名
施設設備の概要（ア）居室数	混成寮、男子寮、女子寮
施設設備の概要（イ）設備等	遊戯室、会議室、図書室、自立訓練室
施設設備の概要（ウ）	
施設設備の概要（エ）	

④ 理念・基本方針

<基本理念>

日々の生活の中で児童の一人の人間としての権利を守り、児童が互いにその人格を尊重しあいながら将来の自立に向けて生活することができるよう、またひとりの社会人として成長するように養育・支援する。

<養護の目標>

- ・ 誠実…自分の行動と言葉に責任を持つ子
- ・ 勤勉…毎日の生活のなかで、忍耐を持って行動する子
- ・ 愛徳…自分自身、まわりの人やものに温かい思いやりをもって大切にする子

⑤ 施設の特徴的な取組

○子どもたちと職員は毎朝登校前に園庭でサッカーをして、一緒に遊んでいる。また、毎日公文式学習と一緒に取り組み、遊びも学習も常に子どもとともにいき、コミュニケーションを密に取っている。複雑な背景を抱える子どもたちに寄り添いながら、職員は一人ひとりの思いを汲み取りながら支援している。

○子どもたちの多くが発達などに課題があり、一人ひとりの子どもの抱えている問題は大きい。思春期を迎えている子どもも多く、職員は性的な問題に対してプロジェクトを組み、定期的に会議を開催し、子どもたちそれぞれの発達に応じた絵本やスライドを作成している。性教育を進める中で、自分も他の人も大事にしていくことを、理解できるよう取り組んでいる。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/9/10
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/2/12
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

⑦ 総評

○戦後まもなく設立された歴史のある園で、自然が豊かな環境の中、子どもたちは男子寮、女子寮、混成寮に分かれて生活を送っている。子どもたちの居室は個室ではないが、中舎制の良さやチームワークの良さを活かし、家庭的な雰囲気を感じ、それぞれが自分のスペースを整えて一緒に生活を楽しんでいる。

○子どもたちの居室は、従来通りの2段ベッドを使用している。子どもたちは居室内に好きなぬいぐるみや写真などを置き、それぞれが楽しんで生活を送っている。居室内は整理整頓され、清潔に保たれている。古い建物ではあるが工夫をして、楽しい生活空間を作り上げている。

○幼児は、年中、年長クラスの幼稚園に通っている。図書室には寄付による多くの書籍があり、年齢に合ったものを各自手に取ることができている。職員が公文式学習の指導者資格を取り、小学生から公文式学習を各寮で行っている。町で運営している土曜塾に通っている中学生もいる。また、特別支援学校や特別支援級に通っている子どももいる。大学生や社会人のボランティアが、子どもたちの遊びや学習にかかわっている。

○子どもたちは、宿題は帰宅後すぐに行い、明日の学校の準備も事前に行う習慣を身に付け、準備が終わってから遊んでいる。自分でやりたいと思うことは体験させ、職員は見守ることを基本としている。年度初めには、子どもたちが1年の目標をあげ、月1回、状況を振り返っている。旅行の計画を自分たちで立て、場所やルート、金額などを調べて、実施している。

○年少の子どもは、箸や食器の持ち方、食事マナー、料理のメニューや食材を知ることなど、基本的なことから学ぶよう支援している。小学生は食事の片付け、女の子は靴下の手洗いなどができるよう支援している。中学生からは、自分で洗濯機を使い、洗濯物の整理をしている。高校生は、訓練室での一人暮らし体験などを行い、退所に向けて準備している。退所後は「あけのほし会」というOB、OG会があり、年2回、園を訪れて近況報告をしている。卒園児との連絡はすべて記録に残している。職員と長く連絡を取り合っている子どもも多い。

○調理は業者に委託している。子どもたちは食べたいものがあると、職員に伝えたり、調理室に直接言いに行き、献立に反映してもらっている。幼稚園や高校生のお弁当は業者が作っている。小・中学生はお弁当の日があり、その日は各寮でお弁当を手作りしている。子どもたちが卵焼きを作り、卵を割る人、焼く人、詰める人など役割を決めて行っている。各寮のお菓子作りの大会があり、子どもたちはカップケーキやロールケーキ、りんご飴など、部屋ごとに作品を並べ、優勝を決めたりしている。

○子どもたちは、電話の内線を使って、電話のかけ方の練習をしたり、乳児院の職員に実際に電話をかけたたりしている。散髪はボランティアが定期的に来てくれるが、町の美容院に行きたいと希望する子どもは、自分で予約の電話をかけたたりしている。玉ねぎや野菜の植え付けや収穫の農業体験の中で、子どもたちは他者とのコミュニケーションの取り方やかわり方を学んでいる。高校生は一人で病院に受診するなど、社会に出てからの行動を学んでいる。インターネットの危険性を学ぶ機会も設けている。

○子どもたちは日常生活の中で、中学校を卒業したらどうするか、高校を卒業したらどうするかを、担当者と話し合っている。そのような中、勉強をどう進めていくか、高校生には独り立ちをして進学するための住まいや金銭問題などについて、具体的な情報提供をしながら話し合い、本人が決めている。

⑧ 第三者評価結果に対する施設のコメント

このたびは、第三者サービス評価の実施ならびに、総評として温かく丁寧なコメントをお寄せいただき、誠にありがとうございました。日々の実践や職員の取り組みを客観的に評価していただけたことは、私たちにとって大きな学びの機会であり、今後の施設運営を考える上での重要な指針となります。

当園では引き続き、施設の老朽化や地域における少子化といった課題も抱えておりますが、箱根の自然豊かな環境の中で、「みんなであんなを育てる」という集団養育の強みを今後も大切にしていきたいと考えています。これらの強みを生かしつつ、時代や子ども・地域のニーズに即した、より良い施設運営をいただいた評価を参考に進めてまいります。今後ともご指導・ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

⑨ 第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
□理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
□理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
□基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	
□理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
□理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
□理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】	

「誠実、勤勉、愛徳」の養護の目標は、ホームページやパンフレットに記載している。毎年3月末に、新採用の職員を含めた全職員が参加し、養護計画会議を開催して、事業計画とは別に養護計画を作成している。養護計画には、冒頭に園の基本方針を載せている。新採用の職員には、3月に1週間程度、アルバイトとして入ってもらい、その中で園長やリーダー職員から、理念や基本方針を説明している。理念や基本方針は、園長室の扉にも貼り、子どもたちの目に触れるようにしている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの数・こども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とするこどもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とするこどもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
園長や職員が、専門職連絡会や要保護児童対策地域協議会、県の児童福祉施設職員研究会などに参加して、社会福祉事業全体の動向や、各地域の福祉計画の策定動向などの把握に努めている。職員に必要な情報は、月1回開催する職員会議の場で、園長から職員にポイントを伝えている。昨年度まで、コンサルタントがつき、運営の相談にのっていたが、今年度はコンサルタントがいないため、毎月、法人の理事と事務長が園を訪れ、経営状況を確認したり、運営のアドバイスをを行っている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【コメント】		
施設の経営課題については、法人の理事や事務長も参加して把握に努めている。現在、園の建て替えの計画が進んでいないことや、職員数が不足していることが大きな課題としてあり、職員会議の場などで職員に周知し、課題解決に向けた取り組みを進めている。職員不足については、専門職を含め職員に聞き取りを行い、一つひとつ現状を見直している。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
【コメント】		

中・長期的な計画については、書面としては作成していないが、中・長期的な計画は、養護計画に重点目標として記載している。養護計画は、重点目標に沿った職員の行動計画として作成している。重点目標の「施設整備計画の推進」については、園の建て替え計画が予定通り進まず、停滞している状況であることから、具体的な計画にまでは落とし込めていない。重点課題については、養護計画会議で共有し、職員に周知を図っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

中・長期的な計画は、養護計画に重点目標として記載している。今年度の重点目標は、①施設整備計画の推進、②児童定員と養育環境の見直し、③人材確保による支援体制の充実、④組織風土の見直しと倫理意識の向上、⑤職員体制の強化と人材育成の5点を挙げている。園の建て替え計画など、停滞している計画もあるが、それぞれの目標に対して、具体的な取り組みをあげている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画については、法人で統一した項目に基づき、園長がまとめている。策定にあたっては、リーダー職員以上が参加する運営会議にて、メンバーの意見を集約して、計画に反映している。運営会議は、職員会議の前に開催している。計画の把握や評価については、時期や方法は細かく設定していないが、年度途中で、理事の助言を受けて見直すなど、評価を行っている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容をこども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画については、子どもや保護者には周知が行えていない点が多くある。保護者には、こどもの入所時に同行した場合は説明し、年1回開催する保護者会では活動内容や取り組みを説明している。こどもたちには、月1回開催するリーダー会の中で、こどもたちの要望を聞いたり、係から行事の内容を説明している。リーダー会の内容は、各ユニットに持ち帰り、夕食の際にリーダーが話をしている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
---	------------------------------------	---

第三者
評価結果

<input type="checkbox"/>	組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/>	定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

運営会議と職員会議は、開催週をかえて、それぞれ月1回開催している。また、毎日、朝礼を行う他、定期的に男子寮や女子寮、混成寮の部署会議を行い、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的に行っている。月1回開催する性教育委員会には、主任や各寮の代表が参加して、PDCAサイクルに基づいて、取り組みの検討、評価を行っている。対応に息詰まったり、負担の多い職員には、状況に応じて、先輩職員が関わってフォローしている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/>	評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
<input type="checkbox"/>	職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/>	評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

職員会議で、課題や今後の取組を共有している。養育・支援の質の向上として、虐待に関する対応を検討している。疑わしいケースには、職員が1人では関わらないことや、チェックに入るタイミングなどを話し合っている。また、運営会議のメンバーを中心にして、虐待防止マニュアルなどを作成している。こどもから、私立の高校に進学したいという希望を聞いた時は、各部署の会議に投げかけ、最終的には職員会議で対応を決めている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/>	施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/>	平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

園長の役割と責任を含む職務分掌は、養護計画に記載し、養護計画会議で職員に周知している。運営会議では、全体に伝えた方がいい内容を確認し、年2回発行する「園報」では、毎回、園長からの言葉を載せている。何かあった時の相談の手順を図式化して、職員に示している。園長不在時の権限の委譲は、明確にされていない部分もあるが、養育については主任が、管理的な部分は事務長が担うこととしている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/>	施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/>	施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	

	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	
--	---	--

【コメント】

遵守すべき法令については、施設長会や研修会、勉強会に園長が参加して、理解を深めている。専門職連絡会や要保護児童対策地域協議会、県の児童福祉施設職員研究会などでも、情報を入手している。また、オンラインでの学習として、コンプライアンスの研修にも参加している。職員に必要な情報は、職員会議などで説明しているが、今後は職員への周知をより行い、園としての取り組みを強化していきたいと考えている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	

【コメント】

養育・支援の質の向上の取り組みは、園長からのトップダウンではなく、主任やリーダー、看護師を中心に、課題の把握や課題に対する取り組みを行っている。園長が細かい指示を出すのではなく、組織として活動している。特に何も無い時は、園長室を開放し、こどもたちが自由に遊びに来ている。また、園長がこどもたちと一緒に夕食を摂ることもある。行事には、園長も参加し、こどもたちの様子を確認している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

月1回、運営会議を開催して、経営の改善や業務の実効性の向上についての取り組みを行っている。各種項目の分析などは、これまでコンサルタントが園長を補助していたが、これからは、何に取り組まなければいけないか、園長が考えていかなければいけないと考えている。次年度に向け、人材の不足が想定されるため、職員の意向確認やユニット編成の具体的な対策などに取り組んでいく必要があると考えている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

【コメント】

職員の採用については、法人内の各事業所が行うこととしている。園長や主任、リーダーが中心になり、社会的養護専門の求人会社や養成校、福祉人材センター、人材紹介会社などを活用して、求人活動を行っているが、職員採用は厳しい状況が続いている。各種加算職員の配置はできているが、全体としては職員数が不足している。今後は広報に力を入れるなどの対策を行う必要があると捉えている。職員の育成に関しては、5年目以上の職員のキャリアをしっかりと作っていくを課題としている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

人事考課制度は必要と捉えているが、評価がしにくい業務、仕事なので、導入は時期尚早と考えている。期待する職員像は明文化していないが、社会人としてのビジネスマナーも鍛えてほしいことを、職員に伝えている。園長と職員の面談は、意向調査を含めて、毎年9～11月に年1回行っているが、退職の意向などを早めに確認したことから、今年度は7月に行っている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

働きやすい職場づくりとして、勤務時間についてはどうしてもリーダーの負担が大きくなるので注意していること、事務的な作業は勤務時間内にすることなどに取り組んでいる。職員のシフト表はサブリーダーが作成し、主任がチェックしている。有給休暇の希望も、サブリーダーが確認している。有給休暇の取得については特に問題はないが、どうしても主任やリーダーがフォローしている部分が多い。職員のメンタルヘルスとして、月1回、外部から心理職員を招いて、面接ができるようにしている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	

	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	
--	---	--

【コメント】

職員個々の目標設定、目標管理は、実施していない。業務において、課題のある職員については、個別に面接を定期的に行い、課題解決の進捗を振り返る機会を設けることがある。園長と職員の個人面談は、今年度は7月に実施している。新人職員の研修については、法人全体で取り組み、半日の新人研修、新人職員の宿泊研修、入職半年後のフォローアップ研修などを行っている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

法人全体の研修は、法人の研修委員会が企画、実施している。新人職員の集合、宿泊研修を開催する他、中堅職員の宿泊研修なども行っている。外部研修については、オンラインでの参加が多いが、主任が担当し、職員の希望を聞いたり、参加者を選んだりしている。内部研修については、メンタルヘルスを担当している外部の心理士にテーマを決めてもらい、定期的を開催している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修については、職員から参加の希望があった時は、できるだけ参加できるよう調整している。外部研修に参加した職員は、研修報告書を提出している。以前は、伝達研修を行っていたが、現在は研修内容をタブレットで確認できるようにしているため、伝達研修は行っていない。オンラインの研修を多く活用し、社会人としてのスキルやビジネスマナー、リーダーシップなどの研修を職員が視聴している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

混成寮リーダーを担当として、実習生の受け入れやオリエンテーションを行っている。受け入れは保育士の実習がほとんどで、今年度は8校の実習生を受け入れている。日誌の書き方などを職員に示し、職員の負担をできるだけ軽減するようにしている。以前は実習終了後、就職につながるケースもあったが、最近はつながらないことが多い。全体のバランスを考えながら、実習生の受け入れは、今後も継続していく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
<p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>法人のホームページで、法人の理念や決算の報告などを行い、運営の透明性を確保する情報公開を行っている。法人の広報誌「雑品倉庫」では、園の活動も紹介している。地域に対しては、職員が落ち葉掃きの清掃を行ったり、子どもたちが共同募金の募金活動を行った時などに、園の活動を紹介するよう努めている。</p>	

<p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>事務や経理、取引などに関するルールは、一般の職員が携わることはないもので、職員への周知は行っていない。園の経理に関しては、適正に監事監査を行うとともに、月1回、外部の会計士に入ってもらい、チェックを受けている。法人全体で、顧問弁護士や社会保険労務士、産業医に、何かあればいつでも相談ができる体制を整えている。</p>	

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設やこどもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p>(児童養護施設)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p>	

地域との関わり方についての基本的な考え方は文書化していないが、地域で開催される行事には積極的に参加している。町の子ども会に入会し、地域の運動会やキャンプには、こどもたちが参加し、職員も係などを担って協力している。県民祭や町のスポーツ大会（ソフトバレー）にも参加している。職員は、小・中学校のPTAや幼稚園の保護者会に参加している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

定期的なボランティア活動については、養護計画に担当者を載せている。ボランティア受け入れに関しての注意事項を作成し、活動の前にオリエンテーションを行っている。現在、学習や美容、スポーツのボランティアが定期的に活動する他、交流会やレクリエーションにボランティアが参加している。招待行事としては、野球の観戦や観劇、スポーツ系の招待があり、職員が付き添って、こどもたちが参加している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

社会資源のリストは作成していないが、多くの関係団体と連携している。児童相談所とは随時連絡を取り、こどもたちの養育・支援をともに行っている。小・中学校のPTAの役員を担ったり、幼稚園の保護者会に参加し、学校との連携を強化している。地域の方々とのコミュニケーションを図り、こどもたちのアルバイトなどの就労体験先を増やすこともできている。また、要保護児童対策地域協議会や町の社会福祉協議会、消防署とも連携し、地域の防災訓練への協力を通して、地域の課題解決に向けて連携を行っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【コメント】

地域の住民の方々から話を聞くことがあり、園のこどもの参加を促すことで、地域活動に貢献している。地域は人口減少がすすみ、高齢化や少子化という深刻な問題を抱えている。福祉ニーズに基づいた具体的な事業や活動はできていないが、地域のお祭りの運営補助を通してのコミュニティの活性化の手伝いや、地域の環境整備作業を通してのまちづくりへの貢献は実施している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
---	------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
<input type="checkbox"/>	把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
<input type="checkbox"/>	多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/>	地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

福祉ニーズに基づいた具体的な事業や活動はできていないが、地域のお祭りの運営補助を通してのコミュニティの活性化の手伝いや、地域の環境整備作業を通してのまちづくりへの貢献は実施している。防災については、園の子どもたちの安心、安全を守る準備以上はできていない。ニーズがあるかどうかはともかく、園の建て替えに際しては、地域交流スペースを作り、地域の方々に活用してもらいたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。 <input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 <input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	b ○ ○ ○ ○

【コメント】

理念や基本方針については、養護計画に則り、毎年3月に園長が全職員に向け説明している。また、職員の採用時にも必ず説明している。養護計画は全職員に配布しており、玄関や会議室にも掲示している。園としては、独自の倫理綱領は定めていないが、全国児童養護施設協議会の倫理綱領を参考にしている。また、全国児童養護施設協議会の児童養護施設における人権擁護のチェックリストを使用し、年1回、全職員が人権擁護について振り返りを行っている。

②	29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。 <input type="checkbox"/> こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。 <input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	b ○ ○ ○
---	---	------------------

【コメント】

個人情報に関する書類や小遣い、個々の薬は、会議室に保管している。職員がいない時は会議室は施錠し、個人情報の保護に努めている。また、子どもたちは会議室には入室できないこととしている。保護者や訪問者に対しては、プライバシーの保護の観点から、写真撮影についても配慮を促している。個人情報の管理やプライバシーの保護については、簡潔にルールをまとめ、職員間で共有している。男子寮、女子寮それぞれの入り口に、鍵付きのロッカーを設置しており、子どもたちが使用できるようにしている。寮の中は、より良い生活環境を目指し、さらなる改善の余地があると認識している。ハード面では、法人が改善案を提案し、日々の生活の場である寮の中のことは、運営メンバーで検討を重ねている。高校生を中心に、プライバシーの配慮に加え、退園後の自立した生活に向けた練習ができる場を、現在準備中である。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

①	30 こどもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
---	---	---

	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもや保護者には、入所前に必ず園を見学してもらっている。パンフレットやホームページ、ブログなどは、写真や図、言葉遣いを意識的に行い、視覚的に理解しやすいように作成している。寮の部屋は個室ではないため、持ち込める私物の量に制限があることや、地域柄、学校や部活動の選択肢が少ないことなどを具体的に伝え、子どもたちが理解したうえで入所を決めてもらうようにしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時には、児童相談所のケースワーカーから子どもに対し、「子どもの権利ノート」について説明をしている。毎年6月には、児童相談所のケースワーカーが子どもたち全員を対象に同様の話をしている。入所前に、施設のルールについて書いた印刷物を手渡し、また、各部屋にも掲示することで、入所後もいつでも振り返ることができるようにしている。また、園のルールについて説明をする際には、ルールができた経緯についても触れ、子どもたちが理解できるように繰り返し伝えている。必要に応じて、個別に面談し、説明することもある。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

引継ぎ文書の書式は統一したものではなく、一人ひとりの子どもに必要な情報を記載している。退所後も支援や相談の継続性が保たれるよう、担当者が引継ぎ文書を作成している。支援は、本人が望む限り一生涯と考えている。退所後に相談したい時などのために、園の担当者や外部の相談先についての説明を、紙面や口頭で本人に行っている。メッセージングアプリや電話で、園の担当者とはいつでも連絡を取ることができるよう、柔軟な対応に努めている。ごみの処理や金銭の管理など、退所後にも継続的に支援が必要な場合は、定期的または必要時に担当者が家庭訪問を実施し、支援を継続している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果	
	①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
		<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
		<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/> こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

各部屋の部屋会議で、こどもたちが日々の生活の中での希望や要望を挙げている。それらの希望や要望は、各部屋の代表が集まり、職員も同席する月1回のリーダー会で具体的に検討している。浴室の時計を直してほしい、携帯電話音の選択肢を広げてほしい、朝食をパンにしてほしいなど、様々な要望が挙がっており、すぐに叶えられるものは叶えるよう努めている。中には職員間で検討が必要なこともあり、その際にはこどもたちにもそのように伝え、検討を継続している。職員会議で共有し、ルールの見直しや改善につなげるよう努めている。見直しされたルールなどは、職員会議のほかにも、園で利用しているビジネスチャットツールで周知するよう工夫している。4月の避難訓練の後にこどもたちが集合した際に、投書箱（苦情解決用のポスト）について、投書した際にも個人のプライバシーと安全が守られることを職員が説明している。個人的な希望や要望については、必要に応じて児童相談所のケースワーカーとの面談を踏まえ、自立支援計画に反映している。食事の要望については、年1回こどもたちから聞き取りをしている。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

4月の避難訓練の後に、投書箱（苦情解決用のポスト）について、投書した際にも個人のプライバシーと安全が守られることを職員が説明している。また、投書箱の横には、苦情解決用ポストの目的や方法を、こどもたちにも理解できるように記し、掲示している。苦情相談窓口は、家庭支援専門相談員が担当しており、こどもたちにも周知している。園のルールとして、相談や苦情は、担当者だけでなく、園内の誰に相談してもよいことになっている。日常生活の中で解決できるものは、できるだけ迅速に解決することを基本としている。挙げた苦情については、本人に必ずフィードバックしている。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

相談や苦情については、園のどの職員に話してもよいことにしている。また、投書箱を設置しており、投書箱を利用して相談や苦情を訴えてもよいことにしている。投書箱の目的や利用方法、プライバシーの保護などについて、こどもたちがわかりやすいように、投書箱の横に説明書きを貼っている。以前は、投書箱は調理室の前にあったが、こどもたちから人目につくので移動してほしいとの要望があり、こどもたちが日頃使用しない玄関付近に移設している。相談は応接室で受けることが多いが、こどもの希望があれば、図書室や空いている部屋を利用している。こどもが安心できるという理由で、誰もいない時には居室を利用することもある。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもたちは、園の職員の誰にでも相談してよいことになっている。子どもたちは、相談したい職員に、いつでも好きな時に相談している。女子は、看護師に相談している様子もよく見かける。相談を受けた職員は、どのように子どもに返答するのが適切かを複数の職員で共有し、十分に検討してから返答している。すぐに返答できるものは迅速に返答し、検討が必要なものについては、「大事な質問だから、よく相談してから答えるね」と、子どもたちが理解できるように説明している。担当職員にとどまらず、職員全体で把握しておいた方が良い内容は、子どもにもその旨を伝え、職員会議で共有している。担当者が交代する場合には、相談内容についても引継ぎ書類の中に記し、支援に活かしている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	

【コメント】

リスクマネジメントに関する体制整備は充分ではないが、こどもの安全については運営会議で検討し、職員会議で周知している。ビジネスチャットツールを利用し、ヒヤリ・ハットは職員が各自書き込んでいる。職員間で共有すべき内容は、担当者から職員全体へ情報共有している。また、外部研修などで他施設の事例も収集し、事故防止の参考にしている。最近では、防火管理責任者から、コンセントのほこりによる発火予防の注意喚起を行っている。

② 38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症対策については、園長と看護師が責任者となり、対策を行っている。看護師を中心にマニュアルを整備し、職員会議やビジネスチャットツールで職員に周知している。マニュアルは、適宜見直しを行っている。感染症予防のため、手洗いのポスターを貼り、子どもも職員も手洗い後はペーパータオルを使用している。出入り口には、手指消毒用のアルコールを設置し、食器用乾燥機も使用し、予防に努めている。感染症が発症した場合には、寮間の往来に制限をかけるなどの蔓延予防策を講じている。

③ 39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○

<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> こども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。	○

【コメント】

災害に備えた計画を事業計画に記し、こどもたちが全員参加しての避難訓練を毎月実施している。火事、地震、土砂災害などを想定し、年に1回は、消防署の立ち合いの訓練も実施している。こどもたちの部屋にはヘルメットを備え、パディ(2人組)を組んで避難するようにしている。部屋毎の避難完了後は、ビジネスチャットツールまたは携帯電話で、防火担当者に避難完了の報告をしている。備蓄管理は、事務長が担当し、3日分の水と食料、毛布やテントなどを備蓄している。現在、命に係わる薬の服用者はいないため、薬については備蓄対象としていない。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、こどもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

養育支援のあり方やこどもの尊重、権利擁護などについては、毎年作成する養護計画に明記している。養護計画は、全職員に配布するとともに、年1回、職員会議で園長が説明し、職員の理解を促している。また、外部講師を招き、こどもの権利擁護などについて研修会を実施している。日々の支援については、職員会議やビジネスチャットツールを通じて、職員間で速やかに情報共有している。「当たり前を支え続ける」という考えが浸透し、適切な支援が日常の中で自然に行われていくように努めている。現在、児童相談所のケースワーカーと面談しないこどもや、不登校のこどもはいない。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員やこども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

自立支援計画は、本人の意向を踏まえ、担当職員や主任、専門職の職員、児童相談所のケースワーカーや児童心理司が参加して作成している。担当職員がこども本人と面談し、「頑張りたいこと」を聞き、支援者からの意見、家族交流などについて計画書に記している。自立支援計画は、6月に立案し、12月に見直しをしている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、こども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、こどもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

園長を責任者として、自立支援計画を策定している。担当者を中心にアセスメントを行うが、必ず複数の職員でその内容について確認している。担当者や専門職の職員のほか、学校とも情報を交換し、必要に応じて計画に反映している。難しい支援については、職員間で相談するとともに、児童相談所のケースワーカーと連携し、カンファレンスを実施し、適切な養育について検討している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、こどもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援計画書には、短期目標（おおむね6ヶ月）と中・長期目標（6ヶ月～2年）及び目標に向けた支援内容を記している。日々の支援経過は、担当職員が養育日誌に記録し、計画に沿った養育に努めている。自立支援計画は、年間計画に基づき、6月に立案し、12月に見直しをしている。職員会議やビジネスチャットツールで、その時期になるとリマインドを行い、確実に実施できるようにしている。こどもたちの変化やトラブルなどにより、緊急に見直しが必要な場合には、児童相談所とカンファレンスを開き、対応している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 こどもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ビジネスチャットツールを導入し、職員が携帯電話で入力、確認ができるようにして、迅速な情報共有を心がけている。ビジネスチャットツールの中で、こどもや職員の体調など職員全員が必読する情報と、担当者や関係者だけに開示する情報など、情報の内容により、チャットの部屋を分け、情報管理を行っている。自立支援計画に基づく養育の実施は、養育日誌で確認できるようにしている。記録については、研修会を開催したり、日誌の確認作業の中で助言するなどして、より適切に記録ができるような体制作りにも努めている。

②	45 こどもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="radio"/>

【コメント】

養護計画に、個人情報の保護について記載している。職務規程には、個人情報の不適切な利用や漏洩の対策、対応方法を記載している。個人情報の管理は主任が担当し、園長が責任者となっている。記録の管理や個人情報保護については、入職時には必ず研修し、会議の中でも職員に伝えている。職員からは、個人情報保護の同意書をもらうことになっている。個人情報の保護については、入所前と入所時に子どもにも説明している。個人情報に関する事故があった場合には、園長が情報を止めることになっている。現在は、利便性を重視し、個人の端末からアクセス可能なため、今後は、ビジネスチャットツールのセキュリティの精度を上げていくことを課題と感じている。

内容評価基準（24項目）

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	b
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見のための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年1回、「人権擁護チェックリスト」に全職員が取り組み、主任を中心に人権擁護についての意義を考えている。各自がチェックリストによる振り返りを行い、結果は集計、分析して、課題を抽出している。課題は全職員で共有し、解決策を検討している。一連の流れは記録に残し、人権擁護の意識を高めている。人権擁護に関して、研修などは行っていないが、「人権擁護チェックリスト」の活用で、職員の意識を高めている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時に子どもは、児童相談所のケースワーカーから「子どもの権利ノート」を手渡され、説明を受けている。園の職員も同席して、低学年で理解が難しい子どもには、わかりやすい言葉で説明を加えている。園の生活の中で、「嫌なことがあったら言っていいんだよ」と、言葉をかけながら、年齢の高い子どもには、権利についても話している。子どもに不適切な言葉遣いがみられた時には、「自分が言われたらどんな気持ち？」「相手は今どんな気持ちかな？」「大切な人が言われたらどう思う？」などと問いかけて、自分も相手も大事にされていることを理解してもらえよう支援している。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生き立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日常生活の中で、こどもから生き立ちの疑問がでた時には、児童相談所のケースワーカーや担当職員、ケースによっては心理士、家族が入り、また学校との連携なども踏まえたうえで、いつどのように話をするか、タイミングを検討している。そのこどもにとって一番良いタイミングはいつか、検討している。どのように話すかは、一人ひとり心理状態が異なるため、難しいこともあるが、絵本を作成して説明したり、動画を作成して説明したりして工夫している。個々のアルバムは、こどもと職員が話し合いながら工夫して作成している。こどもが大事にされている気持ちを持てるよう支援している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「人権擁護チェックリスト」を通して、不適切なかかわりの防止に取り組んでいる。また、不適切なかかわりを防止するため、具体的な事例検討に継続して取り組んでいる。こどもへの対応については、「複数対応について」の冊子を作成し、職員間で共有している。1人での対応で困っている時は、「入ってきて、ヘルプ」のサインを決めている。職員が1人で抱え込まず、複数の対応を心がけ、不適切なかかわり防止に努めている。職員が常に穏やかに子どもとかわれるよう、周りの職員が常に配慮している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの生活の継続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、こどもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>

	○
--	---

家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、こどもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。

【コメント】

児童相談所から入所依頼の連絡があり、居室の空き状況を確認して、受け入れが可能な場合は、こどもの関係書類を送ってもらっている。その後、本人に園に見学に来てもらい、本人の入所の承諾を確認して、入所を決定している。担当者は、こどもが好きな玩具や食べ物などの情報を入手している。入所日には、担当職員と信頼関係が築けるよう、一緒に日用品の買い物に行ったりしている。当日の夕食はウェルカムメニューとして、入所してくるこどもの好きなメニューを提供して歓迎している。本人の好きな物を揃え、安心感を持ってもらっている。

②	<p>A6 こどもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p>	a
	<input type="checkbox"/> こどものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所しているこどもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

年少のこどもは、箸や食器の持ち方、食事マナー、料理のメニューや食材を知ることなど、基本的なことから学ぶよう支援している。小学生は食事の片付け、女の子は靴下の手洗いなどができるよう支援している。中学生からは、自分で洗濯機を使い、洗濯物の整理をしている。高校生は、訓練室での一人暮らし体験などを行い、退所に向けて準備している。退所後は「あけのほし会」というOB、OG会があり、年2回、園を訪れて近況報告をしている。卒園児との連絡はすべて記録に残している。職員と長く連絡を取り合っているこどもは多い。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
①	<p>A7 こどもを理解し、こどもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいてこどもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、こどもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの生育歴を知り、そのときどきでこどもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、こどもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

こどもの入所時には、入所に至った背景や親子関係など、すべて全職員が把握するようにしている。そして、毎日の生活の中で、どのような気持ちでいるのかを複数の職員目で確認している。対応が難しいこどもには、複数の職員でかわり、一人の職員が抱え込まないよう支援をしている。こどもたちが、思いを自分の言葉で表現できるよう話しかけている。特定の場面で怒り出すこどもや、急にソワソワするこどもなど、何がその行為につながっているのか、思いを汲み取るようにしている。

②	<p>A8 基本的欲求の充足が、こどもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p>	b
	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、こどもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内でこどもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○

	<input type="checkbox"/> こどもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々のこどもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員とこどもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

調理は業者に委託している。月1回の調理会議には、こどもたちからの意見を担当職員が栄養士に伝え、メニューに反映している。こどもたちは、直接調理室に希望を伝えに行ったり、担当職員に伝えることが多い。ハロウィンやクリスマス、おせち料理など、行事食を提供し、こどもの誕生日にはリクエストメニューを提供している。郷土料理も提供している。小さいこどもは職員との愛着関係を作るため、絵本の読み聞かせやオルゴールをかけ、添い寝をしたりしている。園には温泉が引かれ、それぞれの寮でルールを決めて入浴をしている。

③	A9 こどもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、こども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員とこどもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもがやらなければならないことや当然できることについては、こども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちは、宿題は帰宅後すぐに行い、明日の学校の準備も事前に行う習慣を身に付け、準備が終わってから遊んでいる。自分でやりたいと思うことは体験させ、職員は見守ることを基本としている。年度初めには、こどもたちが1年の目標をあげ、月1回、状況を振り返っている。旅行の計画を自分たちで立て、場所やルート、金額などを調べて、実施している。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、こどもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にあるこどもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどものニーズに応えられない場合、こどもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> こどもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

幼児は、年中、年長クラスの幼稚園に通っている。小・中学生は、登校前の時間に毎日職員とサッカーを行い、職員とのコミュニケーションや関係性を深めている。図書室には寄付による多くの書籍があり、年齢に合ったものを各自手に取ることができている。職員が公文式学習の指導者資格を取り、小学生から公文式学習を各寮で行っている。町で運営している土曜塾に通っている中学生もいる。また、特別支援学校や特別支援級に通っているこどももいる。大学生や社会人のボランティアが、こどもたちの遊びや学習にかかわっている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> こどもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、こどもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束と一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	□地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

こどもたちは、電話の内線を使って、電話のかけ方の練習をしたり、乳児院の職員に実際に電話をかけたりしている。散髪はボランティアが定期的に来てくれるが、町の美容院に行きたいと希望するこどもは、自分で予約の電話をかけたりしている。玉ねぎや野菜の植え付けや収穫の農業体験の中で、こどもたちは他者とのコミュニケーションの取り方やかわり方を学んでいる。高校生は一人で病院に受診するなど、社会に出てからの行動を学んでいる。インターネットの危険性を学ぶ機会も設けている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/>	□楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□食事時間が他のこどもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員とこども、そしてこども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□定期的に残食の状況やこどもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

調理は業者に委託している。こどもたちは食べたいものがあると、職員に伝えたり、調理室に直接言いに行き、献立に反映してもらっている。幼稚園や高校生のお弁当は業者が作っている。小・中学生はお弁当の日があり、その日は各寮でお弁当を手作りしている。こどもたちが卵焼きを作り、卵を割る人、混ぜる人、焼く人、詰める人など役割を決めて行っている。各寮のお菓子作りの大会があり、こどもたちはカップケーキやロールケーキ、りんご飴など、部屋ごとに作品を並べ、優勝を決めたりしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、こどもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/>	□常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理をこどもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□衣服を通じてこどもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□発達状況や好みに合わせてこども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

衣類の購入は、町まで出なければならないため、小さいこどもは職員が購入してくることが多い、中・高校生の女子は、インターネットを活用して、購入することもある。園では、肌を大きく露出する衣類は避けるようにしている。気に入った服を2枚持っているこどももいて、毎日同じような服装をしている。七五三や入学式、卒業式などの式服は、園で準備している。七五三が近付き、5歳用の男子の着物2着と、7歳用の女子の着物が準備されていた。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるようにこども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/>	□こどもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
<input type="checkbox"/>	身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/>	食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
<input type="checkbox"/>	発達やこどもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

建物の老朽化が進んでいる。浴室は温泉で硫黄が強いため一部修繕をしたりしたが、居室は従来通りの2段ベッドで、中舎制としている。こどもたちは居室内に好きなぬいぐるみや写真などを置き、それぞれが楽しんで生活を送っている。居室内は整理整頓され、清潔に保たれている。古い建物ではあるが工夫をして、楽しい生活空間を作り上げている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりのこどもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	こどもの平常の健康状態や発達・発達状態を把握し、定期的にこどもの健康管理に努めている。	○
<input type="checkbox"/>	健康上特別な配慮を要するこどもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
<input type="checkbox"/>	受診や服薬が必要な場合、こどもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要なこどもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

こどもたちの健康については、看護師が支援職員と同じ情報を持ちながら、健康や発達の状況を把握している。内科や精神科など、薬の管理や健康記録なども、看護師が担当している。寮担当の職員は、こどもの少しの変化も見逃さず、看護師に伝えている。必要に応じて、病院に受診する体制を整えている。

(6) 性に関する教育

①	A16 こどもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<input type="checkbox"/>	他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	○
<input type="checkbox"/>	性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
<input type="checkbox"/>	必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員やこどもに対して実施している。	○

【コメント】

外部講師を招き、「自身の嫌なことを断る力の養成」講座を、こどもたちを対象に行っている。昨年度から職員によるプロジェクトチームを作り、年少から高校生までの性教育にかかわる資料を作成している。絵本や写真、スライドなどを使い、年齢に合った指導ができるよう取り組み、実際に年少児には絵本を使っての指導、思春期のこどもたちには、写真やスライドを使用して指導している。特に人との距離感の取り方について、わかりやすく説明して、自分も相手も大事にすることを指導している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
<input type="checkbox"/>	施設が、行動上の問題があったこどもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	○
<input type="checkbox"/>	施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○

	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

以前は暴力などが見られたことがあったが、現在は特にない。職員への暴力などもない。日常生活の中で、子どもたちの様子をよく見て、パニックや不適切な行動につながる可能性がある時には、子どもの話をよく聞き、今どんな気持ちでいるのかを聞き出し、真のニーズの解決に向けたり、代替えを提供したりして、不適切な行動につながらないように対応している。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

子どもに落ち着かない状態が見られてきた時には、暴力につながることもあることから、職員が話しかけ、ゆっくりと今の気持ちを聞くことを繰り返し行っている。最近、普通の言葉遣いで、「ウザイ」「キモイ」などの言葉は決して良い言葉ではないこと、自分が言われたらどう感じるか、大事な人が言われたらどうかなどを考える機会を作っている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

園では心理士は配置していないため、児童相談所の心理司が定期的に園を訪れている。児童相談所に出向き、話を聞いてもらっている子どももいる。児童相談所の心理司は、計画書を作成したり、子どもに遊戯療法などを行っている。「何のために心理司の話を聞くの」など、疑問に思っている子どももいる。心理司による職員研修や、スーパービジョンが必要と考えている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○

<input type="checkbox"/>	学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
<input type="checkbox"/>	学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

コロナ禍以前は、学習室において、決まった時間に公文式学習を行っていたが、コロナ禍以降は各寮のリビングで行うようにしている。学生のボランティアや一般のボランティアによる学習指導や、中学生の町での土曜塾なども活用している。また、特別支援学校や特別支援級に通っている子どももあり、学校の教師との連携を密に取るようにしている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/>	進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
<input type="checkbox"/>	進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
<input type="checkbox"/>	児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/>	進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
<input type="checkbox"/>	学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/>	高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
<input type="checkbox"/>	高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

子どもたちは日常生活の中で、中学校を卒業したらどうするか、高校を卒業したらどうするかを、担当者と話し合っている。そのような中、勉強をどう進めていくか、高校生には独り立ちをして進学するための住まいや金銭問題などについて、具体的に情報提供をしながら話し合い、本人が決めている。また、特別支援学校の卒業生は、住まいや仕事などについて、学校の先生を含めて決めるようにしている。今年度は、専門学校進学が決まっている子どもがいる。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<input type="checkbox"/>	実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
<input type="checkbox"/>	実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/>	実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
<input type="checkbox"/>	職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
<input type="checkbox"/>	アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生は、近くの蕎麦屋やコンビニエンスストアでアルバイトをして、社会的経験を積んでいる。それぞれが今後のための貯金や、スマホの支払いのためなど、目的をもってアルバイトをしている。中学校は、保育園やホテルなどで職場体験を、学校の授業の一環として行っている。特別支援学校では実習を行い、就職につながるケースもある。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
---	---	---

	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所がこどもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れこどもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後のこどもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を配置している。家族の面会が定期的にあるこどもは約15人、外で面会するこどもは約12人おり、家族と関係性ができているこどもは約半数いるが、楽しみにしているこども、仕方なく面会に応じているこどもと、さまざまである。面会のないこどもに対しての配慮として、園内での面会は図書室などの別棟を使用してもらっている。面会など、家族とのかかわりがあった時は記録を残している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

親子関係の再構築には、児童相談所のケースワーカーと連携を密に行い、家族の環境、親の思い、生活能力などを確認している。さらに、こどもの思いや家での生活の可能性などを細かく把握し、調整を進めている。ここ数年で、4名が家庭復帰をしたが、うまくそのまま家での生活ができているケースもあるが、1人は園に戻り、1人は他の施設に入所している。再構築の難しさを感じている。